

国道31号呉駅交通ターミナル事業 検討経緯

呉駅交通ターミナル整備事業計画(概要)

- 呉駅周辺地域総合開発について開発の基本的な方向性や整備すべき施設等についての提言をとりまとめた「提言書」や、開発のビジョンなどを示した「基本計画」の策定を経て、呉駅交通ターミナル整備事業の「事業計画」を令和3年3月に公表しました。

時期	検討状況
H30.5 ～H31.3	呉駅周辺地域総合開発に関する懇談会
H31.3.27	「呉駅周辺地域総合開発に関する提言書」
R1.7 ～R2.3	「呉駅周辺地域総合開発基本計画検討会」
R2.4.20	「呉駅周辺地域総合開発基本計画(策定)」 ～基本理念～ 「交通まちづくりとスマートシティの発信拠点の形成」
R2.9 ～R3.3	国道31号等 呉駅交通ターミナル整備事業計画検討会
R3.3.19	国道31号等 呉駅交通ターミナル整備事業計画(公表) ～整備方針～ 「道・港・駅・まち」が一体となる次世代総合交通拠点の実現

国道31号等 呉駅交通ターミナルの将来の姿

呉駅交通ターミナル整備事業計画(概要)

～道・港・駅・まちが一体となる次世代型総合交通拠点の実現～

整備方針

モーダルコネク機能の強化

呉駅周辺地域の
交通円滑化

次世代モビリティ等との
連携による
移動利便性・回遊性の向上

防災機能の強化

官民連携による
計画の具体化

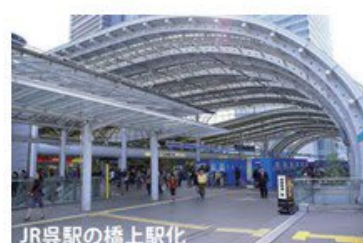
4つの 主要機能

交通 ターミナル

デッキ

次世代モビリティ ネットワーク

防災拠点



官民連携による計画の具体化

- 民間事業者等の知見を広く活用



モーダルコネク機能の強化

- 交通ターミナルにバス・タクシー、一般車の乗降場の整備により、呉駅北側の多様な交通モードを集約
- 交通ターミナルと呉駅を連結するデッキを整備、およびデータを活用

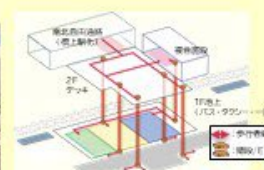


呉港中央橋 ターミナル

JR呉駅

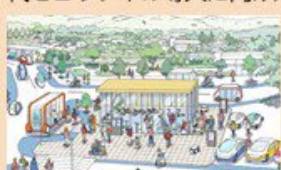
呉駅周辺地域の交通円滑化

- デッキを用いた上下方向の歩行者動線の導入により、自動車との輻輳を解消し、安全な歩行空間を創出
- 橋上駅舎と合わせたシームレスな移動やユニバーサルデザインを導入



次世代モビリティ等との連携による 移動利便性・回遊性の向上

- 既存の道路空間やデッキの活用により、誰もが使いやすい次世代モビリティの導入に向けた環境を創出



れんがどおり・市役所



防災機能の強化

- 災害時の一時的な避難場所や帰宅困難者の受入空間、災害時の情報収集・情報発信の拠点として利用できる機能などを交通ターミナルに整備



令和3年度
新規事業着手

出典) 国道31号等 呉駅交通ターミナル整備事業計画

※今後関係者との調整により、整備内容を決定していきます。

呉駅交通ターミナル整備検討会の設置

- 令和3年3月に策定した事業計画の具体化を図ることを目的に、呉駅交通ターミナル整備検討会を設置・開催しました。
- 有識者をアドバイザーに迎え、官民学のそれぞれの立場から交通ターミナルやデッキなどが担うべき機能及びそれぞれの形状について検討してきました。

■呉駅交通ターミナル整備事業の検討経緯

令和3年度 新規事業着手	
令和4年度 事務局で内容を検討・精査	
R5.7～	呉駅交通ターミナル整備検討会

■開催状況



整備検討会

■アドバイザー、委員一覧

アドバイザー			※所属・役職は就任当時
(五十音順 敬称略)			
呉工業高等専門学校	教授	神田 佑亮	
一般財団法人 道路新産業開発機構	主席研究員	鈴木 克宗	
東京大学 大学院 工学系研究科	教授	◎ 羽藤 英二	
広島大学 大学院 先進理工系科学研究科	副研究科長 教授	藤原 章正	◎:座長

委 員		
整備局	中国地方整備局	道路調査官
	広島国道事務所	所長
市	呉市	都市部 部長
関係者	西日本旅客鉄道株式会社	中国統括本部 経営企画部 課長
	一般社団法人広島県タクシー協会呉支部	部長
	呉駅構内タクシー協会	会長
	広島電鉄株式会社バス事業本部	バス輸送営業部 部長
	中国運輸局	交通政策部 交通企画課 課長
	広島県地域政策局交通対策担当	課長
	広島県土木建築局道路企画課	課長
	広島県警察本部 交通部 交通規制課	課長補佐
	広島県呉警察 交通課	警部補
	清水建設(株)	ECI設計業務 代表者
	くれみらい	五洋建設(株)中国支店 建築営業部 担当部長

※事務局 広島国道事務所計画課及び呉市都市部呉駅周辺事業推進室

呉駅交通ターミナル整備検討会における議論内容

4つの主要機能を持ち、まちの魅力とひとの交流をつなぐための駅前広場の整備を進め、
「交通まちづくりとスマートシティの発信拠点」となる交通ターミナルを目指します。

4つの主要機能

○交通ターミナル

- 便利で安全なバリアフリー動線を形成し、多様な交通モードをシームレスにつなぐモビリティハブを整備(図1)
- 社会のニーズを踏まえながら、一般車エリアを柔軟に使い分けできる交通ターミナルを整備
- アーバンデザインセンター(UDC)と連携した待合空間を創出
- 国・呉市・民間が一体となった管理運営を実現



図1 多様な交通モードをシームレスにつなぐモビリティハブ

○デッキ

- 上下方向の歩行者動線を導入することで、歩行者・自動車の輻輳を解消
- シンボリックな庇を設置し、複合施設と連携した賑わい空間を創出(図2)

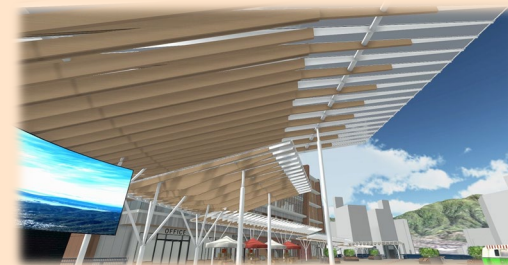


図2 シンボリックな庇 / 複合施設と連携した賑わい空間の創出

○次世代モビリティネットワーク

- 自動運転化への対応や次世代モビリティの拠点として運用(図3)
- 段階的なモビリティネットワークの進化に併せて、誰もが使いやすい環境を創出



図3 デッキへ乗入れる次世代モビリティ / 連節車両や自動運転・隊列走行車両が発着するターミナル

○防災拠点

- 災害時は「防災と交通」の拠点として機能
- 複合施設と連携した一時的な避難場所、物資、情報提供機能の確保
- 関係機関と連携して、災害時の情報を発信(図4)

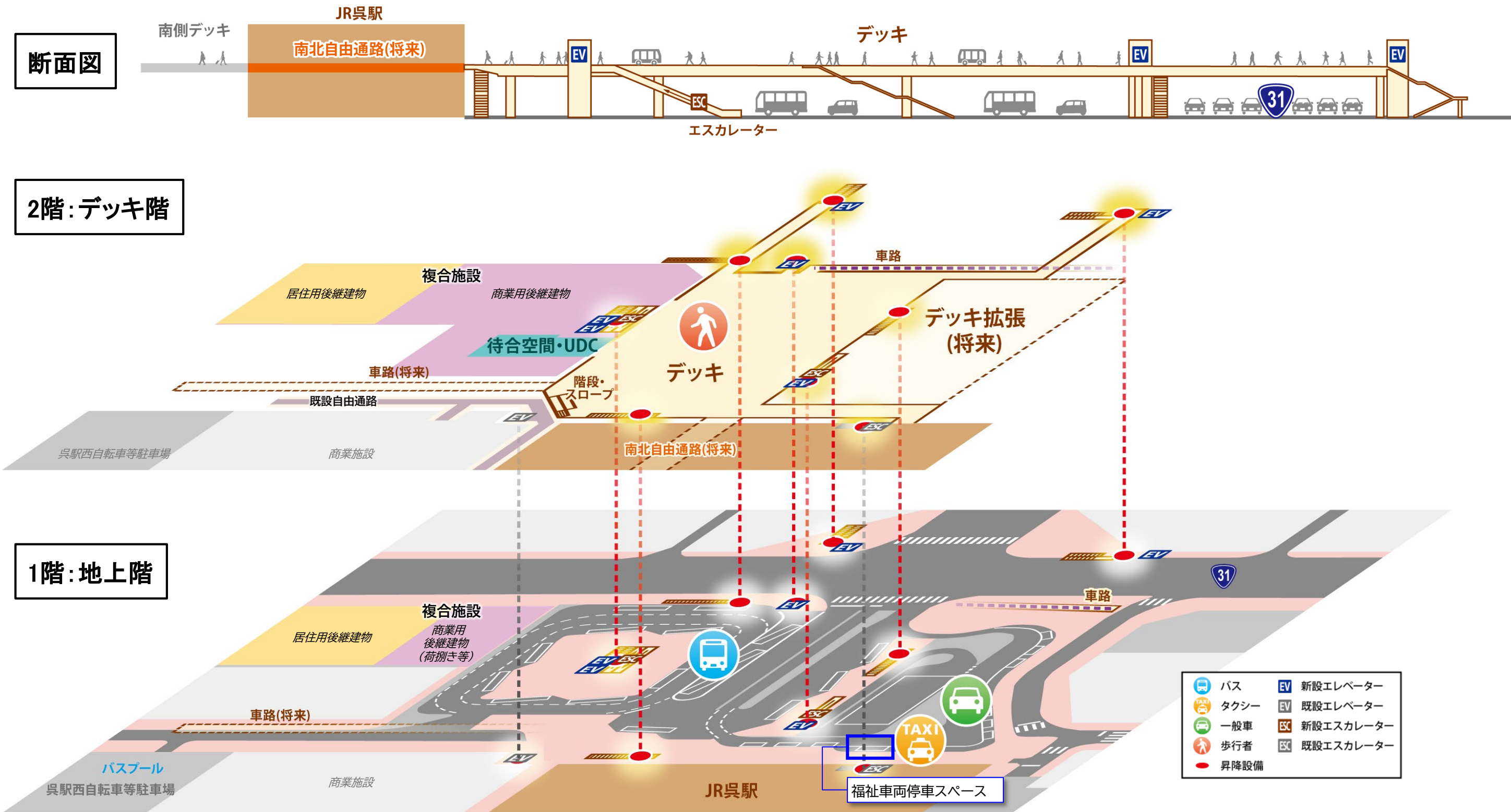


図4 災害時の情報発信

※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

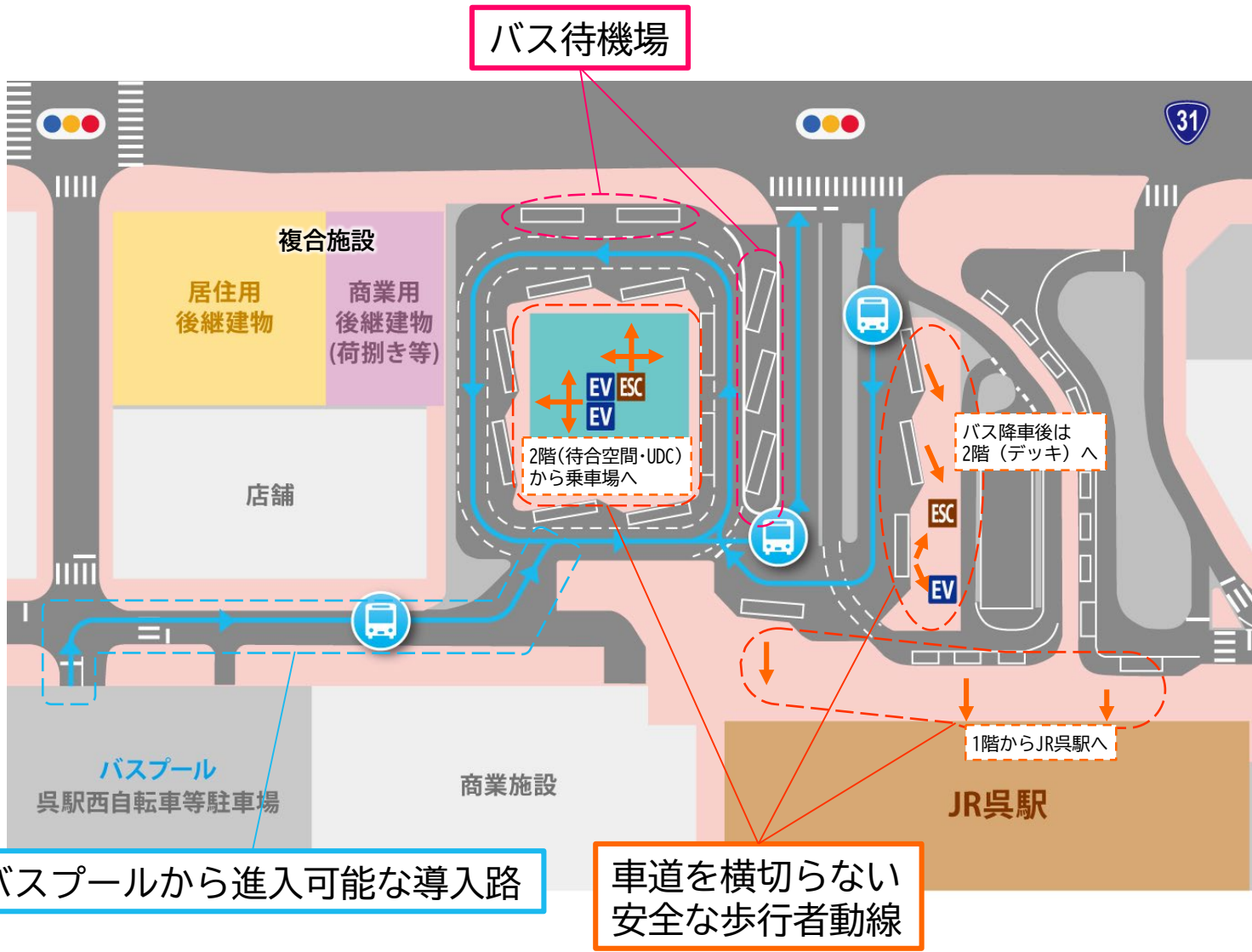
交通ターミナル ～便利で安全なバリアフリー動線の形成～

- 限られた駅前空間を有効活用し、デッキ整備により歩車分離を図ることで、安全性の高い施設配置とします。
- エスカレーターやエレベーターを配置することで、利便性やバリアフリーに配慮します。



交通ターミナル ～バス乗降場空間の工夫～

- アイランド型のバスターミナルとし、バスの走行する車道を横切らない安全性のある歩行者動線を確保します。
- ベンチや小規模店舗等を配置し、快適性、利便性にも配慮したバス乗降場空間を整備します。
- バスプールから直接進入可能な導入路やターミナル内にバス待機場を整備して、円滑なバス運行を支援します。



交通ターミナル ～段階的な整備～

- 令和3年3月に策定した、事業計画の一般車出入口を分離する計画（Ⅰ期）については、実証実験や利用者アンケートを実施し、社会ニーズを踏まえ、出入口統合（Ⅱ期）を検討します。
- 将来的に自家用車活用事業※1（ライドシェア）や自動運転等の受入を検討します。

※1 タクシー事業者の管理の下で地域の自家用車や一般ドライバーによって有償で運送サービスを提供することを可能とする制度

Ⅰ期
（一般車出入口分離）

実証実験
利用者アンケート等

Ⅱ期
（出入口統合）

将来的に、自家用車活用事業※1（ライドシェア）
や自動運転等の受入を検討



Ⅰ期



バス乗降場	12台
バス待機場	5台
タクシー乗降場	3台
一般車乗降場	10台



Ⅱ期



バス乗降場	12台
バス待機場	5台
タクシー乗降場	3台
一般車乗降場	10台



※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

交通ターミナル ～UDCと連携した待合空間を創出～

- まちの未来を描き実践していくアーバンデザインセンター（UDC）を一体的な空間として活用し、休憩機能や情報発信機能を配置、周辺開発等と連携した待合空間を創出します。
- 飲食物販等機能については、隣接する複合施設等において、その機能を確保します。

機能	施設詳細
バスターミナル機能	待合室
	運行管理室・事務室
	職員用更衣室等
	乗車券販売窓口
基本利便機能	情報発信(デジタルサイネージ)
	コインロッカー
	テレワークスペース
	自動販売機
飲食物販等機能	飲食店等

※ バスターミナル機能、基本利便機能の面積:約300㎡
※ 飲食物販等機能、トイレ・パウダーコーナー等は、複合施設内の機能を共用
(デッキ等を活用した小規模な出店も想定)

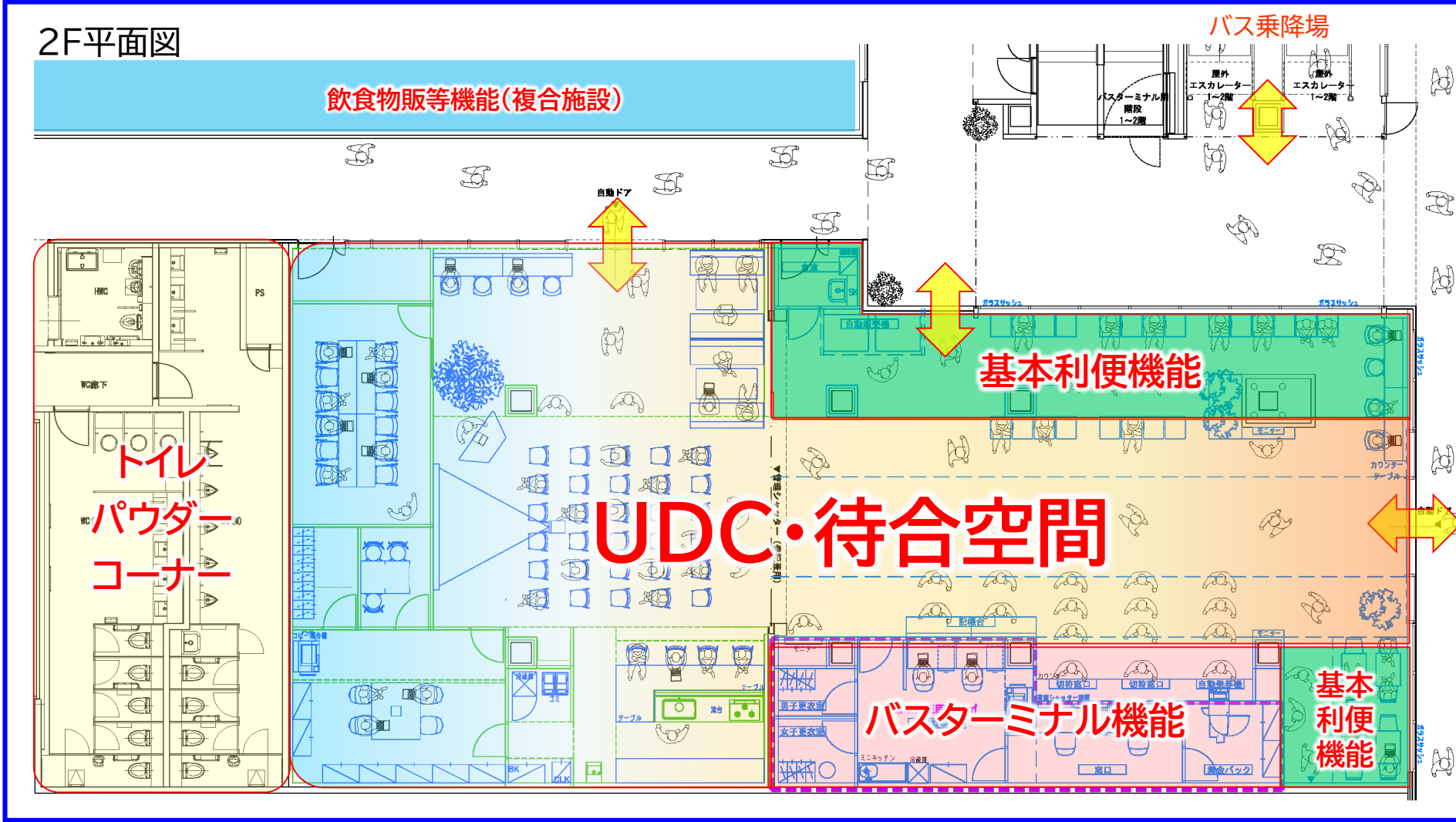
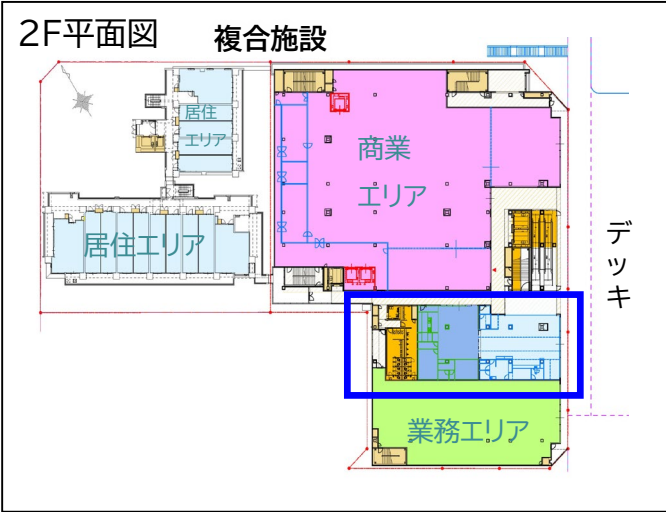
アーバンデザインセンター（UDC）

- 地域社会に必要な公的サービスを担う「公共」、市民活動や経済活動を通じて地域の魅力と活力の向上を担う「民間」、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「大学」が日常的・多面的に連携し、まちの未来を描き実践していくエンジンとなるもの
- デッキの先進的な使い方や駅を起点とした交通・復興まちづくりなど、多方面で整備後の呉駅交通ターミナルに関わっていく。

呉駅周辺地域のエリアデザイン

次世代モビリティ導入に向けた社会実験

平成30年7月豪雨災害の記憶継承



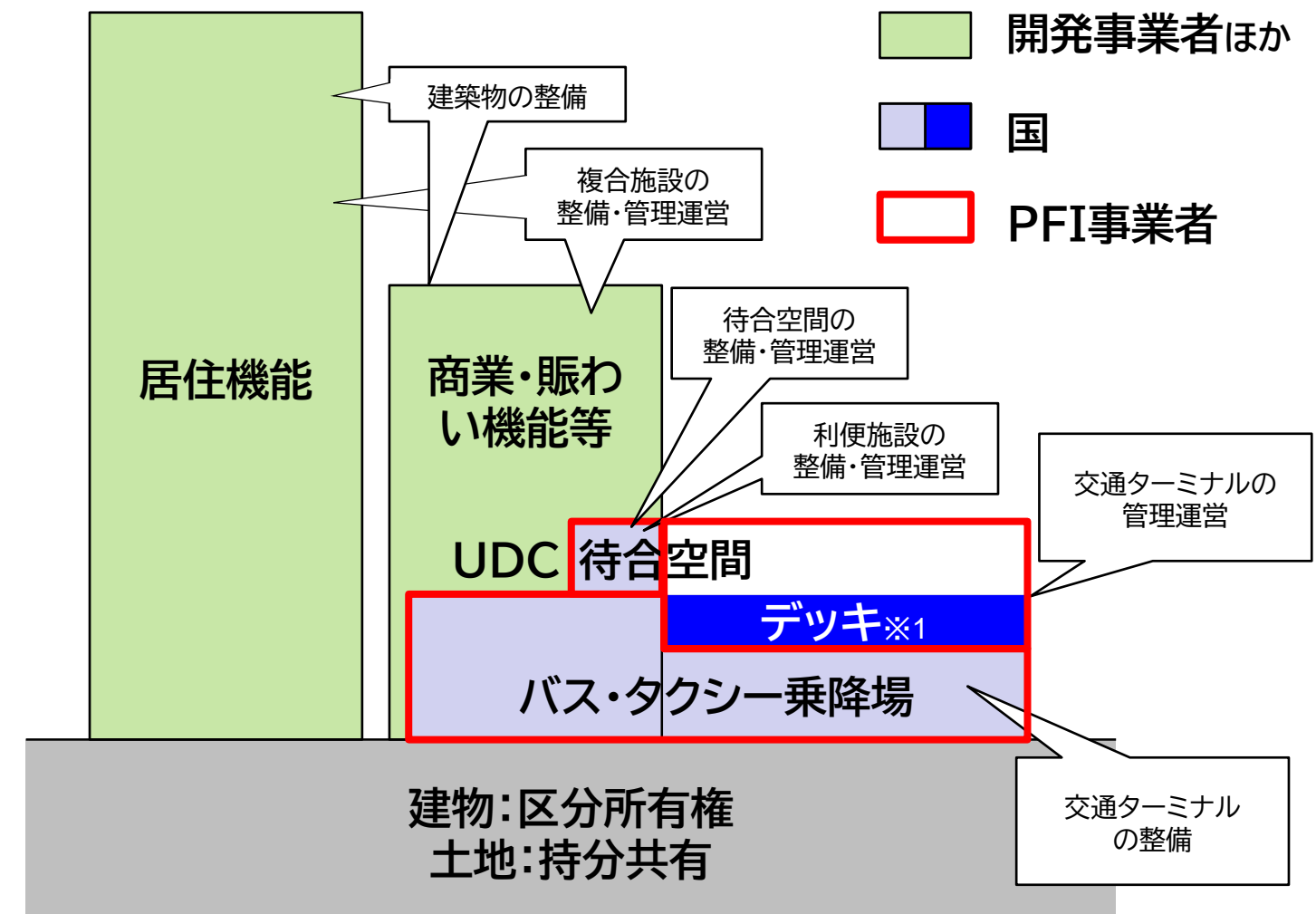
交通ターミナル ～国・呉市・民間開発事業者が一体となった管理運営～

- ・国・呉市及び民間開発事業者が一体となり、複合施設２Ｆフロア、デッキも含めて、施設計画を検討します。
- ・国においては、維持管理費（トータルコスト）と民間運営（ＰＦＩ）を見据えて、管理運営を検討します。

■本事業における官民役割分担

事業内容	役割分担
複合施設の建築物(躯体)整備	開発事業者
複合施設の整備・管理運営 (飲食物販等機能含む)	開発事業者
UDC活動拠点の整備・公民学 連携活動	呉市ほか
交通ターミナルの整備	国
交通ターミナルの管理運営※1	PFI事業者 ・施設整備 (設計、施工) ・施設運営 ・施設管理 等
待合空間の整備・管理運営	
利便施設の整備・管理運営 (コインロッカー、自動販売機、 飲食物販施設※2等)	

■官民役割分担による整備・管理・運営イメージ



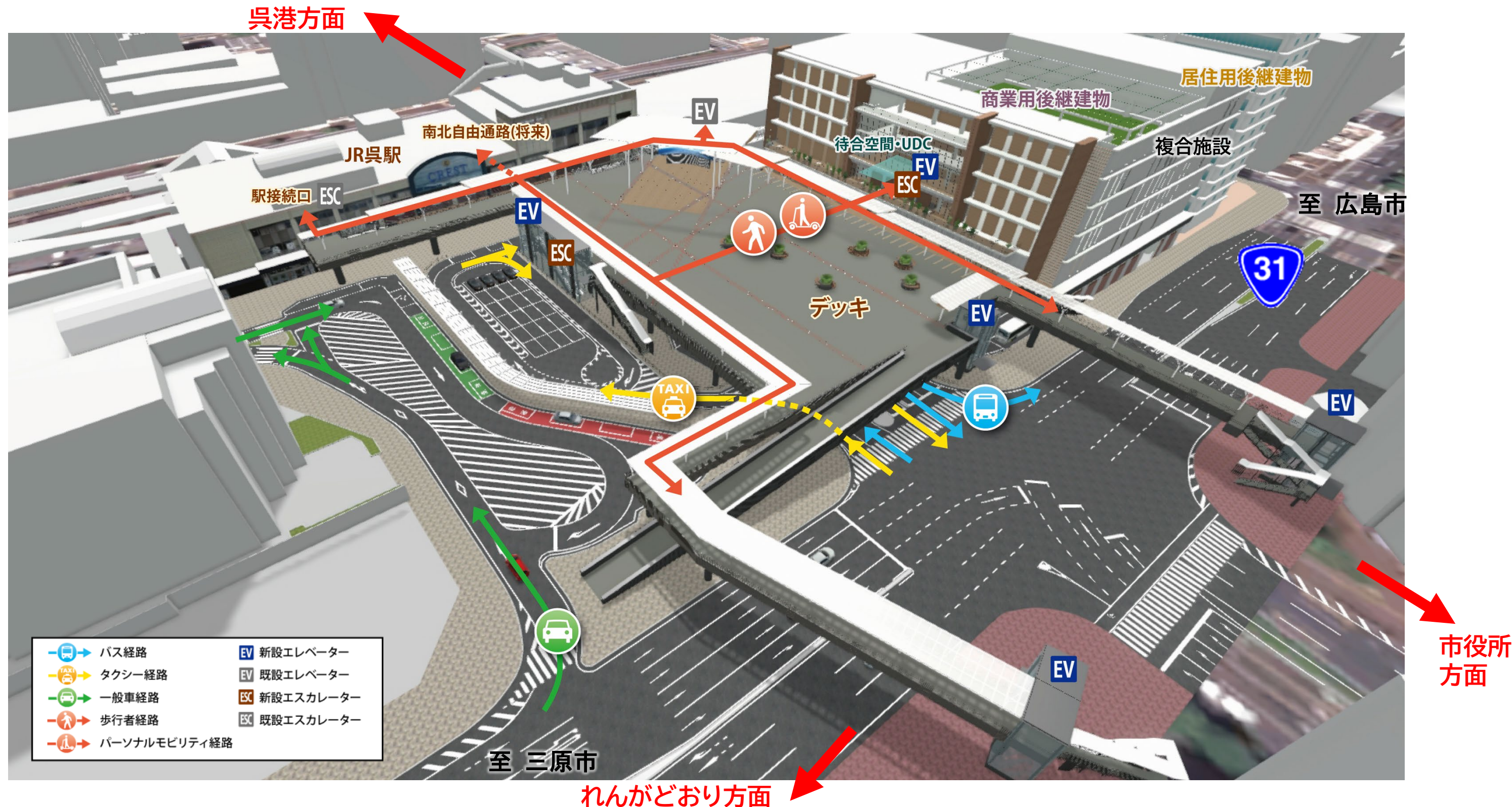
※1 デッキ上の管理運営については歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）の活用を検討中

※2 飲食物販施設の一部については、デッキ等を活用した小規模な出店を想定

※ 今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

デッキ ～各交通モードの動線～

- ・バス、タクシー、一般車、ＪＲ呉駅をデッキで結ぶことによりシームレスな動線を確保します。
- ・バリアフリーに配慮して、エスカレーター及びエレベーターを配置します。
- ・道・港・駅・まちをデッキで一体的につなぐことで、利便性のある歩行者動線を確保します。



デッキ ～賑わい空間の創出～

- デッキ空間をシームレスに運用し、交通利用者だけでなく地域住民にも親しまれる「まちかどのカフェテラス」をイメージし、新たな目的地として「ここに来たい」と思える賑わい拠点への成長を目指します。

様々な情報を発信する大型ビジョン



呉の玄関口として人々を迎え入れるシンボリックな庇



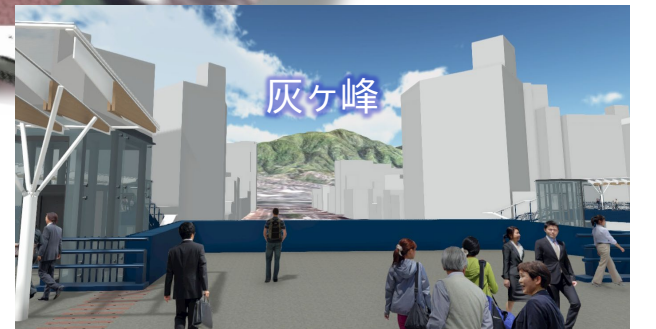
複合施設と連携した賑わい空間



交流や休憩ができるベンチ



移動販売(キッチンカー等)による賑わい



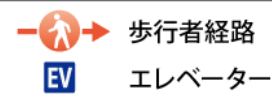
灰ヶ峰を見渡す眺望

※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

デッキ ～段階的な整備～

- デッキは呉市中心部とバス・タクシー・ＪＲ等をシームレスに接続するとともに、日常の賑わい、イベント及び防災時に活用する空間として整備します。
- 日常の賑わいや防災時に活用する車両の昇降スロープ（車路）を整備し、南北自由通路整備時には、円滑な動線および乗合型モビリティ等の各種交通モードの交通結節点として運用します。
- 事業計画にある南北自由通路の計画を担保しつつ、ＪＲ駅へ接続するためのデッキを整備します。
- 将来呉市全域での交通モードの活用や周辺開発状況にあわせてデッキを拡張できる構造とします。

現況



計画

- そごう跡地の開発・駅前広場の改良
- 先進的デッキ空間の整備
- 次世代モビリティに関する実証実験



デッキ5,600㎡

将来

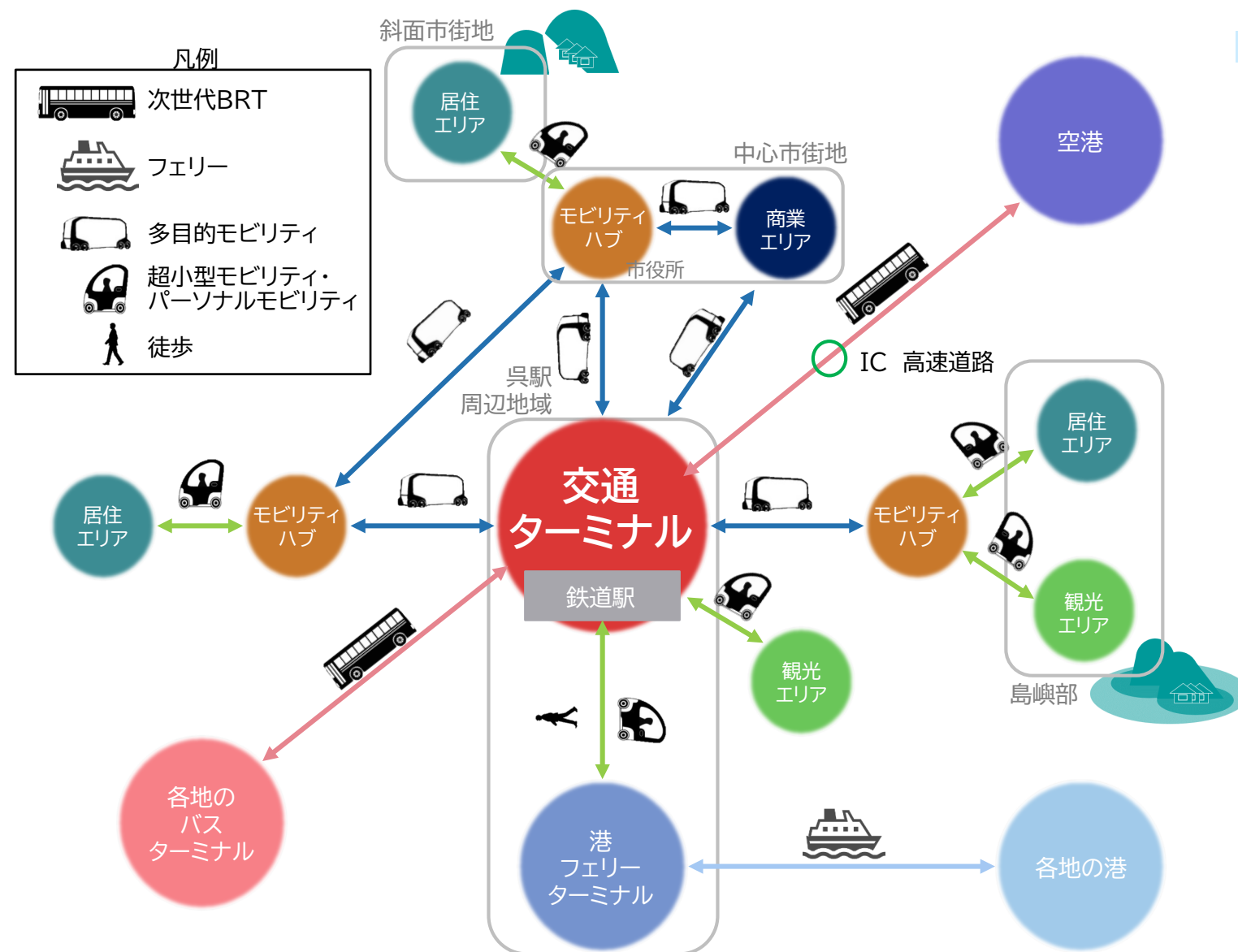
- 呉駅周辺の拠点性を面的に強化
- 総合交通拠点とデッキ空間の連携強化



次世代モビリティネットワーク ～自動運転化への対応や次世代モビリティの拠点整備～

- ・ 自動運転化への対応や次世代モビリティの拠点整備など、今後の新たな技術導入も見据えながら、呉駅周辺地域と斜面市街地や島嶼部なども含めた周辺エリアとの移動を支援する次世代モビリティ・ネットワークを形成します。
- ・ 既存の道路空間やデッキの活用により、次世代モビリティのタイプに応じて導入空間を棲み分け、誰もが使いやすい次世代モビリティの導入に向けた環境とします。

■次世代モビリティによる交通ネットワーク



出典) 国道31号等 呉駅交通ターミナル整備事業計画

■次世代モビリティの導入空間

次世代モビリティ(小型)



パーソナルモビリティ

歩行者と同じように自由に走行。歩行支援として活用。

電動キックボード

出典)株式会社Luup

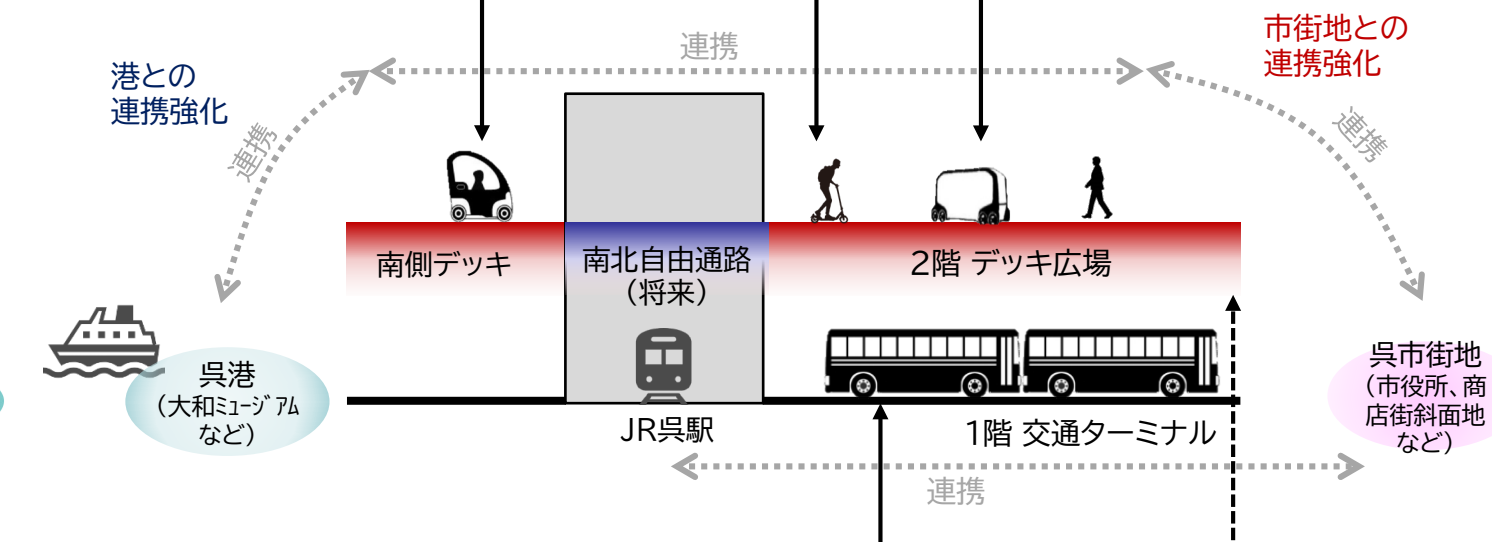


多目的モビリティ



様々な活用が可能な多目的空間。
e-Palette

出典)トヨタ自動車株式会社



次世代BRT

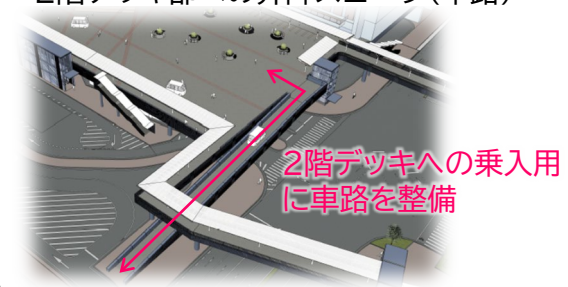


需要変動多い地方都市で利用客により車両数を臨機応変に増減。また、災害時の非常電源機能を搭載。

SORA

出典)トヨタ自動車株式会社

2階デッキ部への昇降スロープ(車路)



出典) 国道31号等 呉駅交通ターミナル整備事業計画

※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

次世代モビリティネットワーク ～将来における次世代モビリティの乗入れ～

- ・ 将来計画において、自動運転車両等の次世代モビリティの受入機能、および、MaaS※¹やシェアリングモビリティ等の新たな技術導入を見据えたモビリティハブ機能を検討します。

■ 次世代モビリティの受入機能



呉市 R5交通社会実験の様子



次世代交通モードの変化を先取りする社会実験等を展開し、自動運転車両、連節バス、隊列走行車両、次世代モビリティ(小型)、パーソナルモビリティなどの次世代モビリティの受入拠点としての機能を強化

※次世代モビリティが発着する場所には、屋根、ベンチ、サイン等を検討します。

※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

■ モビリティハブとしての活用イメージ

待合空間・UDCからスマートフォンでモビリティを予約



予約を受けたモビリティが車路を通じてデッキへ乗入



MaaS※¹やシェアリングモビリティ等の新たな技術導入を見据え、待合空間からスマートフォンで次世代モビリティ(小型)を予約し、デッキ上でモビリティに乗車する等のモビリティハブ拠点としての機能を強化

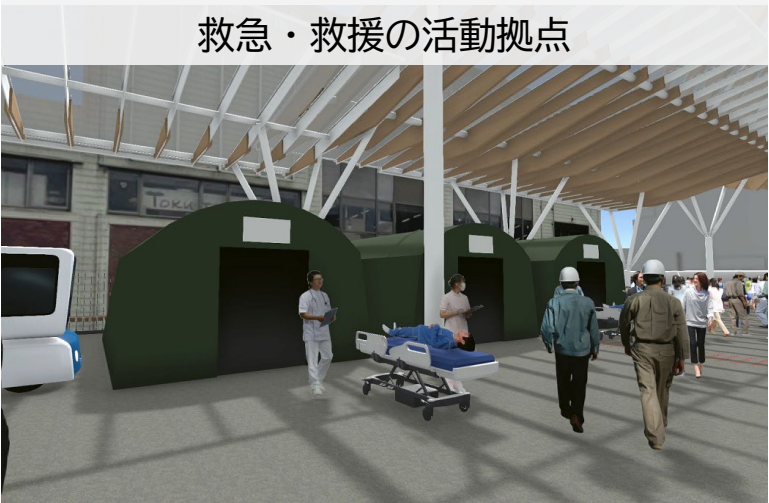
※¹ MaaS(マース: Mobility as a Service)とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

防災拠点 ～災害時は「防災と交通」の拠点として機能～

- 呉市地域防災計画と整合を図りながら、「ここに来れば何とかできる」と感じさせる防災機能（情報の取得、物資の供給、一時避難、災害時の交通ネットワーク拠点等）を導入します。
- 災害時の一時的な避難場所、民間事業者と連携した支援物資の提供や帰宅困難者の受入空間を確保します。

【災害時の機能例】

施設	機能
1Fターミナル	代替交通(臨時便)発着機能
待合空間	- 交通情報発信(運行・運休情報, 復旧見込み, 臨時便ダイヤ・乗車場所など) - 代替交通(臨時便)待合機能
2Fデッキ	- 帰宅困難者一時避難 - 代替交通利用者一時待機スペース - 給水スポット設置 - ボランティア・サブ拠点 - 生活支援物資中継拠点 - 交通情報発信(運行・運休情報, 復旧見込み, 臨時便ダイヤ・乗車場所など)
複合施設・UDC等	- トイレ・授乳室等の開放(24時間) - 体調が悪い方等の一時避難場所 - 帰宅困難者への物資提供 - 体調が悪い方への応急医療など - 災害時コワーキング - 長期帰宅困難者一時滞在 - 交通情報発信(運行・運休情報, 復旧見込み, 臨時便ダイヤ・乗車場所など)



呉市等と連携した物資備蓄
- 発災直後の備蓄(3日程度)は、民間開発事業者と連携協定の締結を想定(呉市・民間開発事業者) - 備蓄スペースは、呉駅西共同ビルの利用を想定(呉市)